

## 『戸山高校卒業50年誌』を「電子データ」で作成した話

高橋 棟作 (昭31) 尾崎 英二 (昭31)



我々は、2006(平成17)年に、都立戸山高校卒業50周年を迎え、記念として『卒業50周年誌』を作成しました。特記すべきは、媒体を紙でなく、CD(コンパクトディスク)にしたことです。左図は、そのジャケット、同期渡辺藤一画伯の装丁。三隅の画像は「バケツ・ロバ・フレンチブルドック」、「ほんとうは野の花のように・・・」は、同期柳沢桂子さんのベストセラー「生きて死ぬ知恵」からの引用です。DXなど叫ばれる前に電子化にチャレンジした経緯・感想など報告させていただきます。

昭和27(1952)年:同期生一同は戸山高校に入学しました。

嬉しかったです。入試倍率=1.5倍。しかし、級友の約10パーセントが戦争等で父親を失っていました。府立四中から戸山高校(男女共学)に変わって4年ですが、やはり「世の中をリードする気風」があったと思います。戸山高校新聞部は、第25号:昭和27年9月19日発行から、第32号:昭和28年9月19日発行まで、『米軍大久保射場問題(銃声問題)』の特集を行い、大手の新聞も取り上げていました。

同期の野口武彦神戸大名誉教授(全国学生自治会連合会、早稲田・東大・ハーバード大学客員研究員・プリンストン大学客員教授)の著書「江戸の風格」の冒頭に『大久保のツツジ 百人組同心の内職』との項があります。

「幕末の切絵図を見ると、西大久保一帯は鉄砲百人組同心の大縄地(組屋敷地)となっているが、区画に大きな特徴がある。一戸あたりの宅地が短冊形をしていて奥行きが異様に深い。鉄砲稽古のために長い距離が必要だったのだろう。……切絵図ではその上に「ツツジの名所」の表示がある。この独特の地形は、後の歴史にも痕跡を留めている。明治には戸山ヶ原陸軍練兵所になって射撃訓練に使われ、第二次大戦後は一時米軍に引き継がれた」と記して居られます。別件として高田馬場駅の西側、高田馬場 4-29-39 には「鉄砲稲荷」があります。

昭和31(1956)年:戸山高校卒業

卒業とは言うものの、「浪人=ひとなみ」と称して、校内に伝統の「卒業生講習会」があり、さすがに運動会は無いのものの遠足はあり、先生同行の40人強で「奥多摩の高水三山」を訪ねたものでした。

同行の柴田治先生は肺結核経験者で「焦らず・一步一步」のお手本でした。某学習塾を受験し、成績一番と言われて「それなら戸山の講習会の方がレベルが高い」と「戸山の卒講」を選んだと言う松香さん(日立製作所代表取締役副社長)。防衛大に合格した際に「そんな所に参加するな!」と、自宅にまで忠告に来た級友を持つ井田さん(瑞宝小綬章)もいました。

#### 昭和56(1981)年 10月 17日:卒業25周年記念・謝恩会

新宿京王プラザホテルで、**先生方11名**をお迎えし、**総勢131名**にて、記念パーティーを開催しました。

戸山高校の校庭に記念樹として、「校章にちなむ柏の木」を植えさせて頂きました。校舎改築に伴い、ビオトープ地区に移植され元気です。最近、経緯を示す樹名板をつけさせて頂きました。



#### 平成18(2006)年 3月 25日:卒業50周年記念の会

新築された母校の校舎の見学を兼ねて会を開催しました。記念事業として「CD版卒業 50年誌の刊行と頒布」を展開し、**ご来賓(恩師、城北会幹部の方々)6名、会員99名**と予期以上の皆さんに参加頂きました。電子データで50年誌を作成した理由は、同期会「やあやあ会」の卒業後5年からの交信記録150ページ超の膨大な記事を掲載したためでした。企業の特許部門にいた磯野さんの知見でCD化が提案され各人の分担作業が進み、無事に配布出来た次第です。



#### 「昭和31年卒・卒業五十周年記念誌」の資金と「戸山エコファンド」のこと

一般的な組版カラー印刷で、「卒業五十周年記念誌」を発行するとなると、部数にもよりますが、120 から 170 万円くらいかかると言われました。しかし、我々の場合は、メインである過去の記録のデータ化(スキャニング)作業を手分けして実施し、電子化原稿までを自作したので、印刷・製本代はかかりませんでした。そのため「卒業五十周年誌」の資金を、記念集会の会費に含めて集めることはせずに、集まった資金の中から金 504,800 円を「戸山エコファンド」名で母校に提供しました。

#### 「昭和31年卒・卒業五十周年記念誌」の内容のこと

当時の編集委員会で、色々議論しましたが、私(尾崎)の記憶では「内容は必ずしも戸山高校時代の思い出や先生方についてだけでなく、今迄の仕事や研究、今後の人生など、について幅広い内容」でまとめることで、同期生に呼びかけました。これには、自然発生的な事実上の同期会「や

あやあ会」の創立メンバーの渡辺藤一画伯が主張され、結果的に、昔の思い出などの記事の他にも多岐に渡っての原稿が集まりました

### CDなど電子記録について・将来はメモリーカードかクラウドか？

意図とした「あやあ会」発足後 45 年余の膨大な資料の保存・共有は無事成功しました。更に、同期ホームページを開設し、その後の会合・出版・消息などの情報を共有し、現在記録保存を検討しています。但し、技術規格は問題です。例えば「城北会千葉支部会誌」は第三号まではPDFが非公開で使えず、別規格で電子化し、その後修正しました。、GoogleBooks で全世界大の巨大な図書館が出現するなど、エジプトのパピルスは数千年後に読めたのだが、紙でない電子データは2000年後に生存？とも感じます。

### 戸山高以外の「卒業五十周年記念誌」について

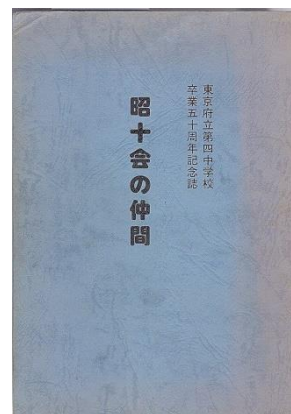
国立国会図書館の蔵書検索で「卒業五十周年記念誌」と検索すると、色々ヒットします。府立四中関連でも「昭和十七年卒」と「十八年卒」、戸山で「二十五年卒」が国会図書館に蔵書されていますが、他にも下記などがあります。

- 府立一中卒業五十年記念誌 昭和一九期如蘭会 昭和一九期如蘭会 1993
- 木々の翠をあとにして：都立六中新宿高校卒業五十年記念誌 終始会卒業五十年記念行事委員会 編 朝陽同窓会終始会 1998
- 戦争と共に歩んだ青春：中島飛行機学徒動員の記録 早稲田実業学校 昭和二十年三月卒業五十年記念誌 中稲会 編 中稲会事務局 1996
- 本郷のなかまたち：東京大学医学部昭和二四年卒業五十年記念誌東大医二四年会 東大医二四年会 1999
- 東北大学医学部卒業五十年記念誌 二九会 二九会 2005
- 遥かな道：青山学院高等女学部女子高等部卒業五十年記念誌 編集委員会 編 刊行世話人会 2000

「卒業五十周年記念誌」の発行は一つの文化のようです。公立学校統廃合の可能性もあり、戸山の「卒業五十周年記念誌」を城北会のみでなく、城北会等での公開了解？を明確にして、国会図書館への献本・永久保存も宜しいのではないのでしょうか。

## 府立四中:昭和十年卒業の方々の卒業五十周年誌のこと (尾崎)

手元に、「昭十会の仲間」と言うA5版約 300 頁の冊子があります(右図)。これは、「府立四中:昭和十年卒の方々の卒業五十周年誌」です。私が、城北会理事会で昭和十年四中卒の村上達三さんから頂戴しました。氏は 2016 年に深井奨学財団に多額の寄付をされ深井功労者になって居られます。激動の時代を過ごされた方々の「五十周年誌」を紹介させて頂きます。



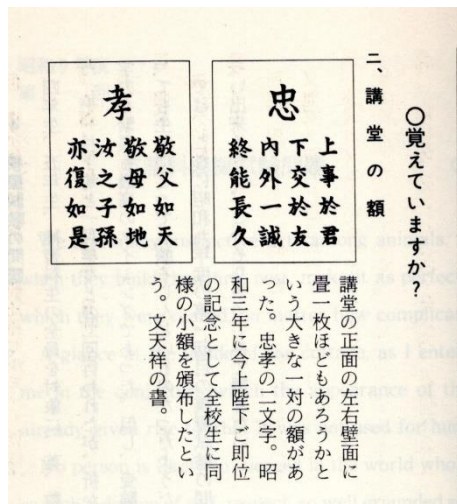
- **作成の経緯:**昭十会の前身は昭和 16 年 3 月に結成した「城北昭拾会」であり、昭和 10 年の卒業生 170 名と昭和 9 年の「四修進学者」51 名の合計 221 名を予定したが、同年 12 月の開戦により会の活動は中断した。敗戦後の昭和 37 年 5 月の城北会総会において「昭十会」の復活を相談した。戦災などで資料が散逸したが、約 150 人の消息を集め、以後毎年会合し、卒業五十周年誌」の作成は 59 年に計画・実施した。
- **在学時代の思い出:**旧制中学は小学校卒業後 5 年間だが、四中では「補習科」があり、合計 6 年間で過ごすものも多かった。
- 当時の四中には、現在では考えられない厳しい規則や指導があった。例えば、毎朝の定時がすぎると校門を閉ざして、遅刻者は学校に入れない、従い時に市ヶ谷駅から左内坂・校門まで五人一人二十銭の相乗りタクシーと成った(P92)。制服のポケットは縫い付けて閉じる、正規授業後に居残りでの学習を指示される。しかし、三輪田高女の生徒さんとのすれ違いも懐かしい。卒業後に五十年も経過すると、すべて、良かったのではと肯定的に受け止めて感謝している。
- 四中では、遠足に山歩きが多く、ある方は 4 年の夏休みに有志 20 数名と共に漢文の大輝先生の北アルプス登山に参加し、その後、登山の「とりこ」となって、社会人になっても山登りを続けた。(P152)
- **時代の背景:**三年の二学期の学習中に、校舎二階の教室から東の方向に黒煙騰々を見た、後で聞くと日本橋白木屋デパートの火事で従業員避難に難渋とのことであった(P75)。
- 昭和 11 年 2 月 27 日に四中では補習科の授業が行われていた。同級の緒方研二君から父・緒方竹虎氏(後の副総理)の勤務する朝日新聞社が前日に反乱軍に襲われた状態を聞かされたものだった(P26)。
- **戦争の影響:**多くの級友が「陸軍士官学校・海軍兵学校」など軍人の道を選び、その他の大学進学者、特に医学部進学者が「短期現役」として、軍務に参加した。
- 同期高井貞夫君は、初戦のマレー沖海戦で英国戦艦 Prince of Wales, Repulse を撃沈した雷撃隊に中隊長として参加したはずである(P36)。
- 海軍に奉職した内田静雄君は軍艦「加古・足柄」に勤務、五回の死地を経て、なんとか生還し今があると言う(P89)。
- 大陸において、木下俊輔君が敗戦後シベリアの収容所で捕虜としての生活を 1000 余名の仲間と 3 年間送ったが、一人も餓死者を出さなかった。ソ連の収容所長と交渉し、食料品についての配給に配慮してもらい、分配については「捕虜に階級無し」として、将校・兵卒を厳格に平等にした。帰国後、大部分のシベリア収容所でかなり多くの餓死者が出たとの話を聞き、それ

らの収容所では食料の分配が、将校・兵卒の間で平等になされなかった？のではないかと記述している。

- **編集後記の記事：** 編集者は物故者について下記のようにまとめている。病気で休学する人と転校する人が多かった。中学4年で一人、旧制高校在学中に2人、卒業後数年以内に9人、第二次大戦以前のノモンハン事件等で3名、第二次大戦では軍医4人、海軍3人、陸軍4人を確認、更に詳しく調べようとしているが終戦時のドサクサでわからない、当時の四中の1学年の人数は約250人である。(以上)
- 昭十会の「卒業五十周年誌」には、昭和八年卒の五十周年誌が有ったと記述されており、昭和一桁の卒業生でも五十周年誌がつくられたようである。城北会事務局にお願いして、これからでも遅くないと思うので、出来るだけ古くからの「五十年誌」を集めて頂き、保管して参照可能にしたら良いのではと考えています。(尾崎)

## 追記

掲載図表より： 講堂の掲示物と四中の航空写真



20年3月、4月の空襲で焼失した加賀町の四中校舎

因みに、「文天祥」は、モンゴル(元)に滅ぼされた「南宋」の軍人政治家。フビライ・ハーンから仕官を促されたが、忠節を理由に断わり刑死で有名。国と主君への忠義を記した「正気歌＝正しい行いとは」があり、幕末の吉田松陰・藤田東湖なども見習ったと言う。

宋の丞相：文天祥曰く、『忠とは、上はよく君主に仕え、下は朋友とよく交際することである。こうすれば家の内外一切は永続できる。孝とは、父を天のごとく敬い、母を地のように敬うことである。さすれば、汝の子孫も同じくするであろう』だそうです。

高田馬場4-29-39の「鉄砲稲荷」よりも大きな『皆中稲荷神社(かいちゅういなりじんじや)』が新大久保駅近くに有ります。

神社のホームページ(<https://www.kaichuinari-jinja.or.jp/>)によれば:『皆中稲荷神社(かいちゅういなりじんじや)は新宿区百人町1-11-16にある稲荷神社で JR 新大久保駅の西約 100m の市街地に鎮座している。賭け事に利益(りやく)があるとして有名な神社である。』



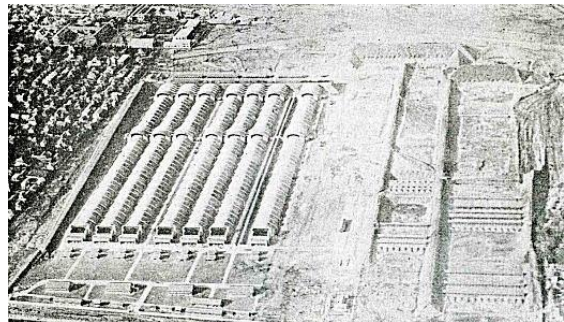
由来として、天文 2 年(1533 年)9 月のある夜、稲荷大明神が鉄砲組与力の夢枕に立ち射撃を伝授した。その靈験が評判となり、皆中稲荷(みななかのいなり)と呼ばれるようになった。その後「当たる」ものに利益(りやく)があると人気をあつめ、現在は「賭けごとの神」として親しまれている。

米軍大久保試射場 『早稲田ウイークリー(2011.12.08)』によれば、

(<https://www.waseda.jp/inst/weekly/column/2011/12/08/56977/>)

理工学術院が使用している西早稲田キャンパス一帯は、陸軍用地として終戦に至るまで使用され、戦後は米国駐留軍が接收。その解除は実に 1955 年のことであった。

陸軍の史料には 1873 年 6 月に尾州徳川家が所有していたこの土地を、射的練兵場などを設置するために兵学寮に交付する旨の記載がある。昭和初年、陸軍は射撃場全体を鉄筋コンクリート造りのトンネルでおおうという作業を講じた。それは巨大な土管を並べて埋めたような外見で、「東洋一」を誇る頑強な構造を備えていた。合計 7 本あった「土管」の 1 本 1 本の全長は 300 メートルにも及んだ。



(以上)

千葉城北会誌 第 19 号

令和 4(2022)年 11 月発行

城北会千葉支部

会 長 岡田 光正 (昭 35)

副会長 於保 洋生 (昭 35)

顧 問 尾崎 英二 (昭 31)

顧 問 齊藤 徳浩 (昭 32)

事務局 仲野 慎一 (昭 50)

後藤 公一 (昭 50)